

ふるさと Something NEWS

連載 最終回

第48回

「ふるさと」というアフオーダンス(下)

一般社団法人 洗楓座
一般社団法人 e f c o . j p
代表理事 佐藤建吉

▼「ふるさと」を アフオーダンス

今回は、連載コラムの最終回であり、前回の続編としてまとめを述べたい。前回の末尾に、『アフオーダンス』の例として、ドアを開くときに迷わずできるような設計をあげた【註1】。これをヒントに「ふるさと」へのドアをアフオーダンスした。同時に、「ふるさと」での暮らしをアフオーダンスしたい。それは、「ふるさと」についての親和性を生み出すことであり、つながりの理解を創り出すことである。

▼「ふるさと」の美容と魅力

わが国においては、戦後の1960年、「国民所得倍増計画」を契機として、いわゆるふるさと活性化の活動を行った。

がそれ、実家の両親や兄弟が居なくなったりして、いわゆるふるさと活性化の活動を行った。

関係者向けに発信している。

府県を示している。沖縄県を除いて、大都市隣接の県で高率の罹患者とな

ナ対策や新しい生活様式としてもメリットがある

用語であるが、便利な言葉が形成される。それは、保存や移動そして販売

さらに宣伝などの第3次

井上靖の著作『ふるさと』から引用すると、ふるさとの言葉を数え

高村光太郎 故郷を自然と重ねて感じる詩には、高村光太郎の『あどけない話』がある。

への愛着の入口となっただけであるといえる。啄木の歌は、ある意味では、反面教師としての立場でもあったし、まさに啄木鳥(キキツツキ)が発する音が木々にこだまするように余韻を残した。今回は、そうした「ふるさと」への導き、すなわち「アフオーダンス」について、深掘りしたい。

二世や三世が東京や大阪など、都市で生まれた。当時は、お盆や正月のために実家の故郷へ帰るという年中行事がしばらく行われていた。

筆者の世代がまさにこの年代であり、高校を卒業して民間会社に就職した。この「ふるさと感」の変容をトレースしたようにさえ思える。大学で地域分散型の自然エネルギー利用を進める教育研究を通じて地方の地域活性化の活動を行った。

ローカル鉄道のエコノミッシュ環境整備のほか、地方の魅力の共有のため廃校を利用したエコフューチャーセンターの実験などを行った。現在は、東京の新橋で、地方をつなぐ活動を行っている。本コラムの「ふるさとSomething」もその一環である。また、文化通信社の「文化通信」には、『地元力発見!』というコラムを連載し、新聞や図書の関係者向けに発信している。

都市の人口のアンバランスは、本連載の第①回に掲げたカルトグラムのように見られる【註2】。

また、コロナの罹患者の各都道府県別の人口比率(表)は、表のようである。薄墨としたのは、全国平均の0.13%と同じく0.1%以上(人口1万人当たり10人以上)の都道府県を示している。沖縄県を除いて、大都市隣接の県で高率の罹患者とな

る。また、本コラムの第③回、第④回、第⑤回に述べたように、自然、SD(ソーシャル・ディスプレイ)、スティングホームとの関わりで、コロナ対策や新しい生活様式としてもメリットがある

と。これは、ふるさとという言葉の数え

高村光太郎 故郷を自然と重ねて感じる詩には、高村光太郎の『あどけない話』がある。

新型感染症感染者数(2020年12月15日時点)

地名	感染者数	人口	感染率
全国	177,811	127,094,745	0.1399%
北海道	11,171	5,381,733	0.2076%
青森	373	1,308,265	0.0285%
岩手	302	1,279,594	0.0236%
宮城	1,507	2,333,899	0.0646%
秋田	94	1,023,119	0.0092%
山形	253	1,123,891	0.0225%
福島	611	1,914,039	0.0319%
茨城	1,987	2,916,976	0.0681%
栃木	870	1,974,255	0.0441%
群馬	1,652	1,973,115	0.0837%
埼玉	10,441	7,266,534	0.1437%
千葉	8,189	6,222,666	0.1316%
東京	47,225	13,515,271	0.3494%
神奈川	15,053	9,126,214	0.1649%
新潟	400	2,304,264	0.0174%
富山	474	1,066,328	0.0445%
石川	910	1,154,008	0.0789%
福井	332	786,740	0.0422%
山梨	440	834,930	0.0527%
長野	957	2,098,804	0.0456%
岐阜	1,498	2,031,903	0.0737%
静岡	2,087	3,700,305	0.0564%
愛知	12,525	7,483,128	0.1674%
三重	1,055	1,815,865	0.0581%
滋賀	863	1,412,916	0.0611%
京都	3,076	2,610,353	0.1178%
大阪	24,929	8,839,469	0.2820%
兵庫	7,228	5,534,800	0.1306%
奈良	1,493	1,364,316	0.1094%
和歌山	554	963,579	0.0575%
鳥取	67	573,441	0.0117%
島根	166	694,352	0.0239%
岡山	702	1,921,525	0.0365%
広島	1,560	2,843,990	0.0549%
山口	435	1,404,729	0.0310%
徳島	187	755,733	0.0247%
香川	199	976,263	0.0204%
愛媛	359	1,385,262	0.0259%
高知	357	728,276	0.0490%
福岡	6,622	5,101,556	0.1298%
佐賀	380	832,832	0.0456%
長崎	290	1,377,187	0.0211%
熊本	1,210	1,786,170	0.0677%
大分	516	1,166,338	0.0442%
宮崎	584	1,104,069	0.0529%
鹿児島	823	1,648,177	0.0499%
沖縄	4,805	1,433,566	0.3352%

居場所となる【註3】。4、5】。これは、地方が新しい居場所となり、それはかつての故郷の地であり、新しい「ふるさと」をつくる機会としたものである。これもアフオーダンスとなるだろう。ついでに、交流頻度の、接触頻度に関連のあることを示している。

すなわち、地方には、自然があり、いわゆる過密ではない。また、高層ビルは少なく、天空率も高い。それは星を見晴はかりでなく自然の空気が流れる。また、本コラムの第③回、第④回、第⑤回に述べたように、自然、SD(ソーシャル・ディスプレイ)、スティングホームとの関わりで、コロナ対策や新しい生活様式としてもメリットがある

関連して土地の有効利用を進めることに関心をもちたい。例えば、一坪当たりの生産性を均衡化が望ましいが、その道は険しい。故に、土地に対する充足感が欲しい。それは対コロナに対しては、あるメリットが示されたが、多くの尺度で評価される高次元量となる。

人間の能力や特性の尺度として『コンピテンシー』というのがある。これは英語由来のカタカナ用語であるが、便利な言葉が形成される。それは、保存や移動そして販売

産業を生み出す。これは、サービスマン産業といえる。従来から、これらの生産地と加工地、そして消費地をつないださらに複雑な産業の第6次化へ樹枝葉状に広がる。それは、第6(11+2+3)次産業でもある。すなわち複合産業である。

しかし、これには時間軸が大きな役割を演じていない。時間軸は、発展や持続可能性に関わる。この局面では情報伝達の重要性や貢献力が高い。それは、人材育成と情報通信技術(ICT)が必須であり、これらを統合して第4次産業と名付ける。すると、先の第6次産業とこれを足し算して、第10次産業、あるいは産業の10次化と呼ばれる。

八木重吉 心のくらくらしたふるさととは祭のようにあかるいでおもわれる

大木実も『日本の田舎』も歌う。

大木実 わたしには帰っていく故郷がないけれど、故郷は何処にでもあるような気がする。つねに静かに、つねに温かく、日本の田舎は、いつでもわたしを迎えてくれる気がする。都のなかの生活のなかで、ひととの交りのなかで、わたしは想う。日本の野や川を、それからふかふかと深い底をもった家のなかで、伝えられ守られてきた日本の美しい習慣や生活の精神を、その想いがわたしを安らかにしてくれる。

高村光太郎 故郷を自然と重ねて感じる詩には、高村光太郎の『あどけない話』がある。

高村光太郎 智恵子は東京に空が無いという、ほんとの空が見たいという。私は驚いて空を見る。／．．．／智恵子は遠くを見ながら言う、／阿多羅羅山の山の上に毎日出ている青い空が、智恵子のほんとの空だ。／あどけない空の話である。

次詩もあげよう。

室生犀星 故郷は遠きにありて思うもの／そして悲しくうたうもの

また、八木重吉は『故郷』で次のように歌う。

室生犀星 故郷は遠きにありて思うもの／そして悲しくうたうもの